

平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	石 合 祐 太
事 業 名	先進地視察「ごみ分別について」
事 業 区 分	① 研究研修 ② 調 査

1 上田市での課題と調査の目的

上田地域の重要な課題である資源循環型施設建設問題を抱える中、市民の皆様におかれてもごみ問題への関心は近年特に高いと言われるが、ごみ分別については多くの課題が山積している。

生ごみについては可燃ごみの半分ほどを占め、プラスチックごみについては排出状況が悪いということで指摘を受ける状況でもある。

水俣市の反省から環境先進都市を目指すとし、分別や生ごみ処理において先進的な取り組みをしている水俣市の取り組みから上田市に活かせる点を学ぶ目的で行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	熊本県水俣市
平成31年1月29日(火) 13:30-15:00	担当部局	水俣市環境課 環境クリーンセンター

1. 視察先の概要

人口：24,859人、面積：163.29km² 市政施行：昭和24年4月1日

2. 市の特徴

かつて二つの川（水俣川と湯出川）が市街地中心部で合流し、再び別れX字状に流れていたその形状から水の股と呼ばれていたことが地名の由来であるとされる。

熊本県南西部、鹿児島県に隣接し、水俣川河口に位置する商工業都市。1950年代に有機水銀中毒による水俣病が発生。公害という負の遺産をプラスの資産に変えようと積極的に環境政策に取り組み、08年7月に国の環境モデル都市に認定。11年4月に日本環境首都コンテストで「日本の環境首都」の称号を獲得。財政状況は財政力指数・0.36、経常収支比率・96.7%

3. 視察事項について

【分別回収のきっかけ】

- ・平成4年3月、卓上コンロ用ガスボンベがクリーンセンターにて爆発事故（当時は可燃ごみ・不燃ごみのみの分別）
- ・同年から、環境モデル都市づくりに挑戦

【分別への道のり】

- ① 平成5年モデル地区からスタート（20分別）
- ② 住民説明会300回以上開催
- ③ 半年後の平成5年8月に市内全域で開始（燃やすごみ1、資源・粗大19）
- ④ 平成14年23品目（燃やすごみ1、資源・粗大22）
- ⑤ 平成30年22品目（燃やすごみ1、資源・粗大21）※右は現在の分け方、出し方の表



【分別の効果】

右表の通り。

排出量、埋め立て量は着実に減少し、リサイクル率の伸びがうかがえ、数字の上からも、市民にごみ分別について理解が浸透していることも読み取れる。市内に310カ所あるごみステーションごとにリサイクル推進員（各自治会で役員として任命）の方がごみ出しのサポートを行っていただいていることも、成果につながっているものといえる。

年度	ごみ総量	埋立量	リサイクル率	人口
1991(H3)	10,926t	4,013t	0%	34,510人
1994(H6)	8,838t	1,289t	16.5%	33,671人
2003(H15)	9,278t	1,009t	41.2%	29,784人
2013(H25)	7,885t	592t	40.0%	26,773人
2017(H29)	6,889t	540t	41.6%	25,165人

報
告
内
容

【継続の源】

資源の売却益 約 23,031,700 円／平成 29 年度
リサイクル還元金として各地域に還元している。

【生ごみ処理容器キエーロの活用】

平成 29 年度から生ごみ処理容器「キエーロ」(右
写真)を無償貸与をはじめ、市内全域で平成 30 年
12 月末時点で 850 基の設置が進んでいる。(市で把
握している分のみ)



生ごみ処理にかかる税金についても削減につなが
り(1年間 184 万円ほど、5年間 920 万円ほど)、地
域として畑とキエーロで生ごみ処理を行うため、生
ごみ収集不要宣言を行った自治会もある。

使用方法についても、右のように木の箱に土を敷
き詰め、生ごみを水分とともに土に混ぜるだけと極
めて簡単。たい肥としても良質な肥料で、ごみの削
減、ステーションまで持って行く必要もなく、高齢
者にも歓迎されているとのこと。



【収集ごみの実地見学】



プラスチックごみも洗浄されてから出され、
鼻を突く悪臭のようなものはない。



電池は極同士が触れ合うと発熱し危険なた
め、絶縁処理を施してから捨てるルール。

【考察(まとめ・市政に活かせると思われる事項等)】

当初時点から住民の皆様への説明会の丁寧な開催、自治会ごとのリサイクル推進員の配置など、
ごみ分別を進める時に住民が「お客様」ではなく、「主体的」に関われるよう進めていかれた手法
はプロセスとして非常に重要だと感じた。また、キエーロについても実用的で高齢化の時代にあつ
てごみ出し負担軽減、コスト削減にもつながることから上田市として検討の余地がある。